

## 東北文化学園大学リハビリテーション学科 紀要 執筆要項

別途に配布するワードファイル（論文雛型）を使用して、以下の要領で作成してください

### 【原稿の長さ】

- ・和文の場合は、図表、参考文献含め 10 ページ以内で作成する。（1 ページあたり 1638 字）
- ・英文の場合は、参考文献を含め 5,000 語以内で作成する。

### 【題目】

- ・論文の題目と副題はコロン（:）でわかる。
- ・ランニングタイトル（ヘッダ）を 30 字以内で記載する。ただし、表題が 30 字以内であれば、同じでも構わない。

### 【字体・フォントなど】

- ・題名は明朝体（アルファベットは century）、フォントサイズ 16 で記載する。その他（著者・本文注釈など）は明朝体（アルファベットは century）フォントサイズ 10.5 で記載する。
- ・本文中の見出しは太字を用いる。読点は「，（全角）」、句点は「.（全角）」に統一する。
- ・和文の原稿は常用漢字、新かなづかいを用い、学術用語は「医学用語辞典」（日本医学会編）、「整形外科学用語集」（日整会編）などにできるだけ従うものとする。論文中の人名は原則として原語で、数字はすべて算用数字で、日本語化した外国語はカタカナ（この場合「」は不要）で記載する。
- ・英文の原稿はアメリカ心理学会（American Psychological Association）発行の「出版マニュアル第 5 版」（Publication Manual 5th edition）に準拠すること

### 【要旨】

- ・和文要旨は 400 字以内で途中で改行は加えない。
- ・英文要旨は 400 語以内で途中で改行は加えない。
- \* 和文の場合は、英文の要旨をつけ、英文の場合は、和文の要旨つけること。

### 【キーワード】

- ・要旨欄の下には、本文の内容を示すキーワードをつける（5 語以内）。

### 【図表】

- ・スペースは定められた余白より内側で本文 2 列分もしくは 1 列分を用いて挿入する。
- ・図表の挿入位置は、ページ内の上もしくは下とし、ページ内の文章が図表によって途切れないようにする。
- ・図表には、必ず内容を示す図題・表題をつける。

### 【文献】

- ・本文中の引用箇所には文献番号を記載する。  
例：1)2)3), 1)5) など
- ・欧文の引用文献の表題名は、頭文字以外はすべて小文字を用いる。
- ・番号は引用順につける。
- ・「,」「.」に注意して記入する。

## 1. 雑誌の場合

- ・「著者名（姓を先とする）：表題. 誌名 発行年； 巻：頁.」で記す.
- ・雑誌名の省略は，和文雑誌はその正式な略名を用いる.
- ・原著論文では，はじめと終わりの頁を記す.
- ・著者名は最初の3名まで列挙し，その後「・・・他（et al.）」を続ける.

- 1) 東博彦：寛骨臼の発育と病態. 日整会誌 1989; 63: 377-394.
- 2) Parkin DM, Clayton D, Black RJ, Masuyer E, Friedl HP, Ivanov E, et al, Childhood leukaemia in Europe after Chernobyl:5year follow-up. Br J Cancer 1996; 73: 1066-1072.
- 3) Vega KJ, Pina I, Krevsky B. Heart transplantation is associated with an increased risk for pancreatobiliary disease. Ann Intern Med 1996;124:980-983.

## 2. 単行書の場合

- ・「著者名（姓を先とする）. 書名. 版. 発行地：発行者（社）；発行年.」で記す

### a). 著者が個人名の場合

Tax HR. Podopediatrics. 2nd ed. Baltimore: Williams & Wilkins; 1980.

### b). 著者として編集者，編著者の場合

Norman IJ, Redfern SJ, editors. Mental health care for elderly people. New York: Churchill Livingstone; 1996.

### c). 単行書内の章の場合

Phillips SJ, Whisnant JP. Hypertension and stroke. In: Laragh JH, Brenner BM, editors. Hypertension: pathophysiology, diagnosis, and measurement. 2nd ed. New York: Raven Press; 1995. p. 465-478.

## 3. 学術集会発表論文の場合

Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. MEDINFO 92. Proceedings of the 7<sup>th</sup> World Congress on Medical Informatics; 1992 Sep 6-10; Genova, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p.1561-5615.

以上.

## 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要 投稿規定

本学科が発行する機関誌の名称は、「東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要」とする。

本誌は本学医療福祉学部リハビリテーション学科の研究活動の一環として設けられたものであり、学術研究の発展と教育の向上を図ることを目的とする。

### 【投稿資格】

1. 本誌への投稿は本学科の教員（非常勤を含む）、大学院学生、卒業生・修了生、本学の前身である専門学校卒業生、およびその共同研究者、あるいは紀要委員会の長が依頼した執筆者とする。

### 【論文の種類・長さ】

1. 本誌に掲載される論文の種類は、原著、症例報告、報告、短報、その他とする。
2. 投稿原稿の種類と内容は以下のとおりである。
  - 総説：最近の学術的・技術的知見や成果を、歴史的背景、重要性、進捗状況、将来の方向等を踏まえつつ、総合的に論述したもの
  - 原著：独創的な研究論文および科学的な観察等
  - 症例報告：症例に関する新知見または独創的な試みに関する報告
  - 報告：独創的で斬新な調査研究
  - 短報：独創性があり、速やかかつ簡潔な発表を期待する研究報告
  - その他：紀要委員会の長が許可、もしくは依頼する内容の報告・論文など
3. 原稿は、原則として別途定める執筆要項に従って作成する。
4. 全ての論文は、仕上がり 10 ページ以内とする。

### 【論文の投稿・受理】

1. 投稿者は、原稿と電子ファイルを記録したメディアを 10 月末日までに、紀要委員長まで提出するものとする。なお、郵送による場合には、期限当日の消印をもって有効とする。
2. 投稿原稿は他誌に未掲載のものでなければならない。

### 【研究倫理】

1. 東北文化学園大学研究倫理規程に基づき、対象者の保護に十分に留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

#### 【利益相反】

1. 東北文化学園大学利益相反管理規程を遵守し、利益相反の事項がある場合は本文中に記載すること。

#### 【査読】

1. 原稿が投稿された場合、紀要委員会は適任者 2 名を選出し、査読を依頼する。
2. 査読の意見書等の様式は、紀要委員会が定める。
3. 紀要委員長は、査読者の意見書等を添付し、その結果を投稿者に報告する。
4. 投稿された原稿の掲載の決定は査読者の意見を参考にして紀要委員会が行う。

#### 【発行および編集】

1. 本誌は年一回発行とし、発行日は 3 月末日とする。
2. 本誌の発行者はリハビリテーション学科長とする。

#### 【原稿送り先】

〒981-8551 宮城県青葉区国見 6 丁目 45-1

東北文化学園大学 医療福祉学部 「リハビリテーション学科紀要委員長」 宛

## 編集後記

コロナウイルス感染拡大やウクライナ情勢の長期化など暗いニュースが多い中、明るいニュースの一つとして 2022 年 11 月よりカタール国首都ドーハにてサッカーワールドカップ開催が報じられました。世界中が熱狂の渦となる中、日本チームの大活躍を見て国内では熱狂し興奮したファンも数多くみられました。予選リーグでは優勝候補であった「ドイツチーム」並びに「スペインチーム」を撃破、リーグ首位で決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントでは「クロアチアチーム」に PK にて敗れはしたものの日本に眩しいぐらいの光と勇気を注いでくれました。

そのような、輝かしい舞台を構築するうえで重要な役割の一つを担っていたのが、「リハビリテーション学」であったのも記憶に新しいところです。激しいプレーの連続のため、骨折や靭帯損傷などを抱えてしまった選手を元通りのプレー可能状態まで回復させ戦力強化に貢献したニュースは国内だけではなく国外まで伝えられました。

奥が深く、幅の広い「リハビリテーション学」による上記貢献はほんの一部であり、学問が織りなす知識や技術の育みは本学の根幹の一つであると考えられています。2022 年度のまとめとして 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要「リハビリテーション科学」第 19 巻をお届けいたします。 (記：作業療法学専攻 津田)

### 紀要編集委員会

浅野浩一 高卓輝 白澤信行 津田丈秀 鈴木博人 星孝

東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科紀要

### 第 19 巻

2023 年 3 月 31 日 発刊

発行者 東北文化学園大学医療福祉学部  
リハビリテーション学科 学科長 専攻長

編集 紀要編集委員会  
〒981-8551 仙台市青葉区国見 6-45-1  
TEL 022-233-3310 (代表)